

## 生産者の皆様へ（イモグサレセンチュウ被害を拡大させないために）

平成19年秋、鳥取県内で始めて青森県から導入したニンニクの種球からイモグサレセンチュウが発見されました。

このイモグサレセンチュウは、ニンニクを腐敗させる他、らっきょう、ジャガイモなどに甚大な被害を及ぼします。また、種球で伝搬・拡大するほか、一度発生すると発生ほ場から一匹残らず駆除するのは難しいので、十分留意してください。

### 1 ニンニクのイモグサレセンチュウ被害の特徴

イモグサレセンチュウが寄生したニンニクは、収穫まで一見健全に生育しますが、収穫後～貯蔵中に腐敗等の著しい症状を引き起こします。

収穫乾燥後50日目頃から下写真のような症状が目立ち、時間の経過とともに腐敗はりん片全体に及んで、やがて雑菌が著しく繁殖してきます。



盤茎部から放射線状に変質腐敗（外皮なし）



外皮有り状態の腐敗球の外観



変質部断面はスポンジ状（空洞化）



腐敗が全体に及ぶとともに雑菌が著しく繁殖

### 2 ニンニク種球の植え付け前と植え付け後に注意したいこと



イモグサレセンチュウの寄生を受けた種球

イモグサレセンチュウが寄生した種球は、保管中に腐敗が進行し、著しい腐敗臭がしてきます。

また、症状が軽い場合は左写真のような状況になります。このような種球を植え付けると生育は異常となり欠株も多発します。適正に処分し、絶対に植え付けないようにしてください。

りん球肥大期（5月頃）に寄生すると、黒腐菌核病や紅色根腐病と混発し、下葉から枯れ上がることもあります。

生育状況を良く観察してください。



肥大期の下葉枯れ症状



寄生された葉鞘部は褐変・剥離する

### 3 イモグサレセンチュウの各種植物への寄生と被害は

イモグサレセンチュウは、多くの植物に寄生します。

これまでの知見では39種の植物に寄生し、ニンニクの他にアイリス、らっきょう、ジャガイモには**甚大な被害**をおよぼすことが確認されています。

### 4 ニンニク栽培に当たっての留意事項

- (1) 健全な種球を健全なほ場に植える。
- (2) イモグサレセンチュウに汚染されたりん片を植えてしまった場合は、出来るだけ早く掘り取り、土壤消毒しましょう。
- (3) 萌芽時の異常株や欠株が多い場合、収穫時に下葉の黄化が著しい場合、収穫後～貯蔵中に腐敗球が多発する場合は、お近くの農業改良普及所やJAに相談してください。また、発生ほ場から収穫したニンニクは、種球としての使用は止め、健全な種球に更新してください。
- (4) (2)のほ場や(3)の症状が発生してイモグサレセンチュウが確認されたほ場では、ニンニクやらっきょうなど被害が懸念される作物の作付けは絶対に避けましょう。
- (5) イモグサレセンチュウは、10年以上の間寄生が確認されていない作物を栽培しても生存し、ニンニクを作付けすると、再び被害を発生させますので、発生ほ場の記録は残しておきましょう。

#### 問い合わせ先

不明な点はお近くの農業改良普及所またはJAにご相談ください

(写真提供：青森県農林総合研究センター畑作園芸農業試験場)

